2020年2月5日

野村アセットマネジメント・野村資本市場研究所 の共同研究

人生100年時代の投資家人生の姿を探る

～金融ジェロントロジー的視点からみる資産運用に関する調査～

2020年版
金融ジェロントロジー調査

今回の金融ジェロントロジー調査では、インタビュー調査を実施し、高齢投資家と直接向き合うことで、個々の実態を把握。そしてアンケート調査で定量的な傾向をつかむことで、高齢投資家の姿を探ることを目的に実施しました

❑ 調査結果

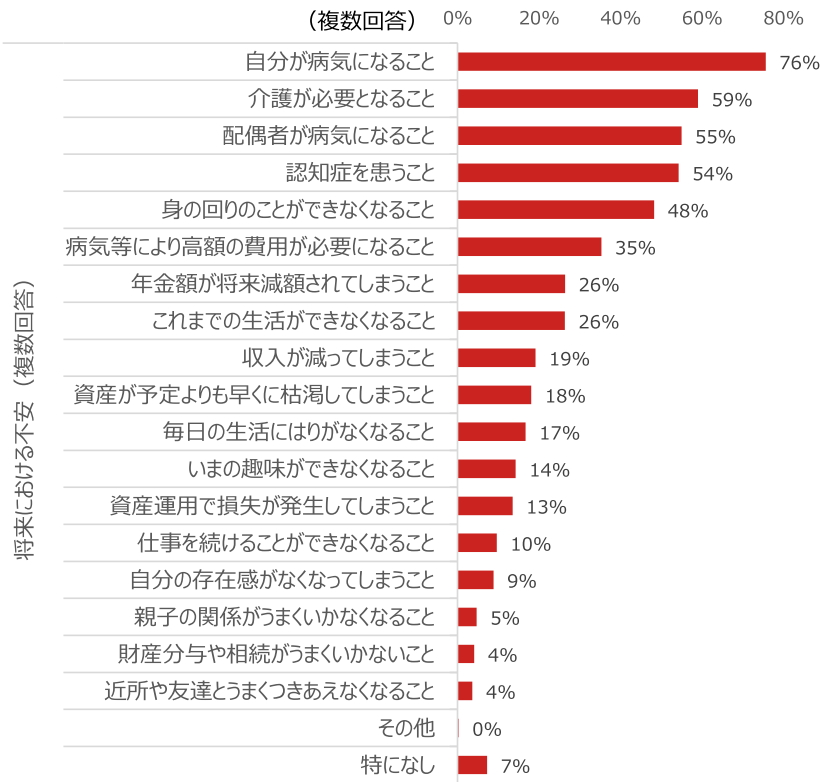
- 高齢層は老後に健康面の不安を感じる人が多い。他方、生活の満足度に負の影響を与えているのは、年金の減額、収入減少、資産枯渇等の経済的な不安である
- 資産の取崩しを行っている世帯では、年間では金融資産の3%程度、取り崩している。当該世帯では、計画的な資産の取崩しは3割に留まる
- 自己判断層においては、老後においても、自己判断による証券投資を続ける意向だが、自分で投資判断することが難しく感じている様子も見られ、証券投資をやめて現金化する意向が比較的高い
- 長寿化する老後生活において、最期まで資産運用により、資産寿命を延ばすことの重要性が増している。その中で、金融機関は金融資産の一元管理などの資産管理サービスを提供することが求められている

注）調査方法の概要などは、巻末を参照

■ 将来に対する不安～健康面に対する不安が大きい

Q)将来の生活についてお伺いします。あなたの生活の将来において、不安に感じることはどのようなことですか。(複数回答、全体n=2,371)

将来に対する不安　（全体　n=2,371）



＜インタビュー調査＞ 健康状態と健康に対する意識

◆後期高齢投資層・女性（75歳主婦）

- 高血圧の薬を飲んでいる。66歳で自己免疫性肝炎になり、現在も3,4ヶ月に１回通院。
- 体力、記憶力の低下は感じるが、今の所、認知症の症状は出ていないので認知症に対する不安はない。
- 昔の75歳は隠居して家で何もしないイメージだったが、今は88歳でも体操教室で元気。自分もそうなる感じがする。
- できれば最後まで自立した生活をしたい。有料老人ホームを見学したが、人間関係の難しさや、施設内で完結してしまう生活を見たら、自分たちに向いていないと思った。

◆後期高齢投資層・男性（83歳無職）

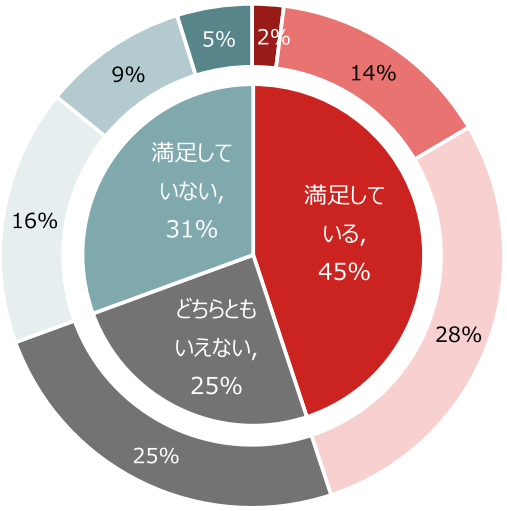
- 5年前に軽い脳梗塞ありだが、後遺症なし。前立腺がん手術あり。
- スキーやカメラで花火大会撮影など、かなりアクティブシニアだが、集中力ややろうと思う意志は日々衰えている。イベントに行こうと思っても、疲れて億劫だからやめようと思ってしまう。
- 子供には迷惑掛けたくないので、認知症になったらすぐに老人ホームに入る。いずれ介護が必要になると思う。

NOMURA
野村アセットマネジメント
野村資本市場研究所

■ 高齢者の将来不安と生活満足度；生活満足度は高齢層ほど高い。ただし、将来不安との関係をみると、「収入減」「資産枯渇」等の不安を感じていると、生活に対して不満超過となっている

Q) 生活全体としてどの程度満足していますか。(全体 n=2,371)

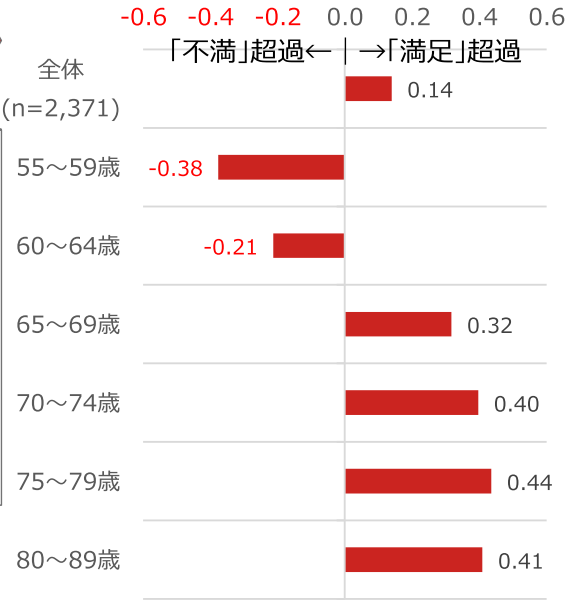
生活満足度　（全体　n=2,371）



・満足度別に点数化
下記凡例の満足度別に
-3～+3の点数化

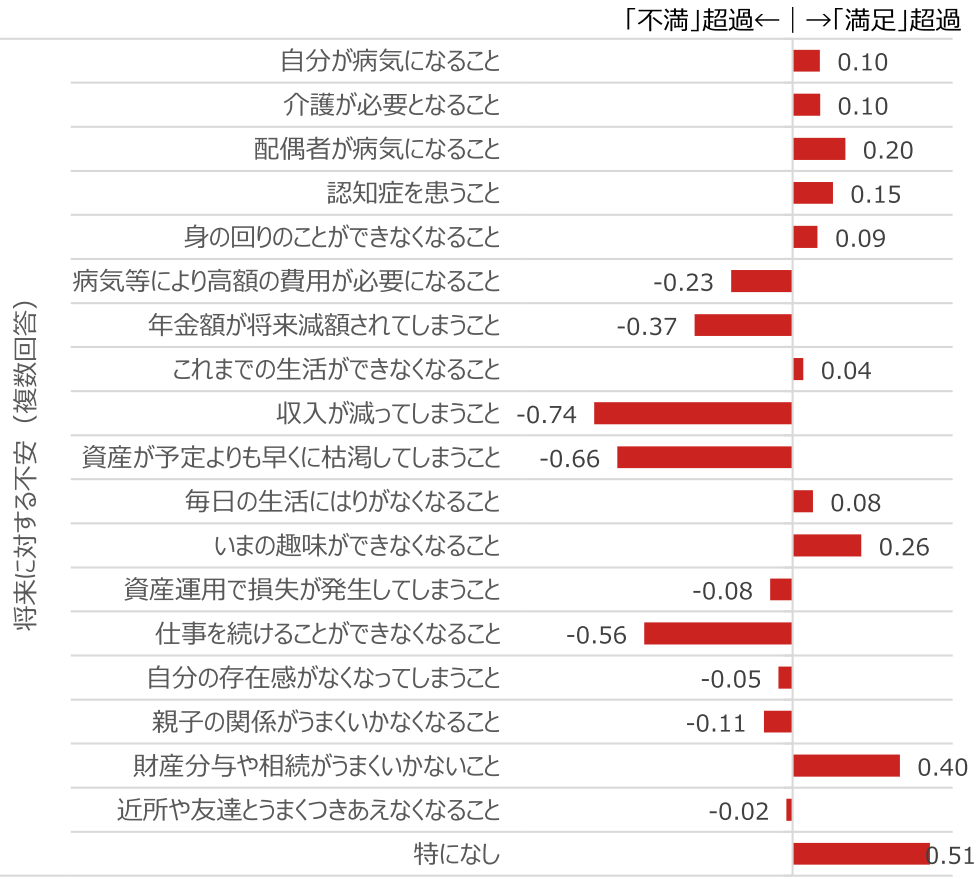
- とても満足している(3)
- 満足している(2)
- やや満足している(1)
- どちらともいえない(0)
- あまり満足していない(-1)
- 満足していない(-2)
- まったく満足していない(-3)

年齢階級別生活満足度（点数表示）（全体　n=2,371）



（注）小数点以下を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合がある（以下、同）

将来に対する不安別にみた生活満足度（全体 n=2,371）

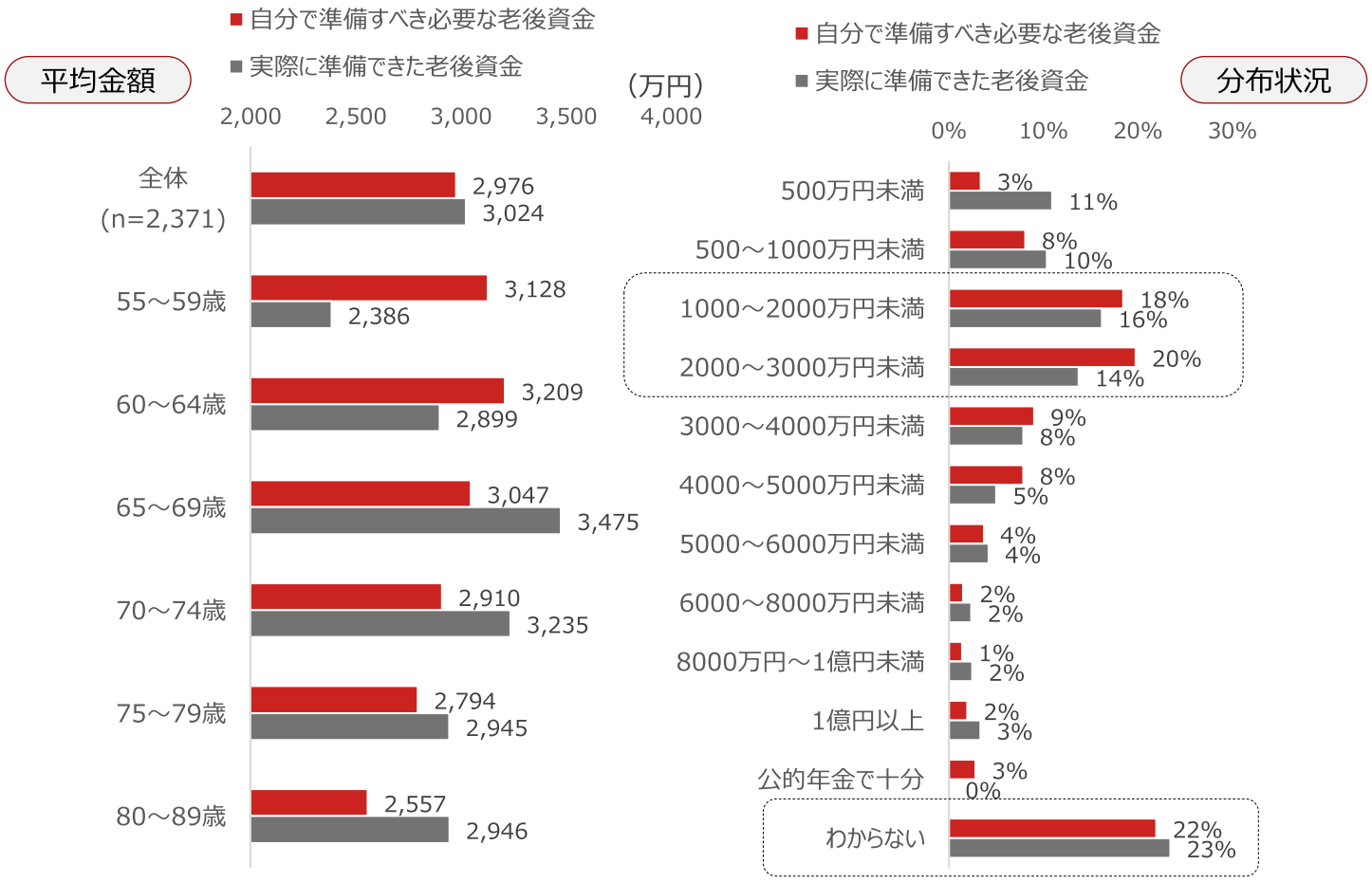


（注）「将来に対する不安」における項目別に、生活満足度の回答を集計したもの。なお、「将来に対する不安」は複数回答であるため、同一回答者が複数の不安項目を選択して回答している点に留意が必要

■ 必要な老後資金は、2千万円前後の割合は多い。ただし、必要な老後資金、準備できた老後資金について「わからない」とする割合が2割となっている

Q)世帯の老後資金について、年金以外に自分たちで準備しなければならない資金額はどれくらいだと考えますか。イメージとしてお答えください。また、ご自身で準備できた金額（退職一時金も含めて）についてお知らせください。
(全体 n=2,371)

老後資金の準備状況　（全体　n=2,371）



<インタビュー調査> 老後資産に対する意識

◆プレシニア投資層・女性（59歳主婦）

- ねんきん定期便を見て、これだけでは足りないとわかっていた。ネットで検索すると3千万円足りないとか書かれていた。
- 夫の退職金のうち1千万円を年金形式でもらうように設定。
- 夫と年齢差があり、女性の方が長生きするので自分は70歳からの繰り下げ受給を考えたい。
- 家を売ればなんとかなるかもしれないが、老人ホームに入るまでのお金はない。大病をしなければ二人でなんとか暮らすだけの蓄えはできた。
- 亡父の相続時は、取引のあったXXX信託銀行に相談し、いろいろやってもらえた。母は遺言書準備済み。

◆後期高齢投資層・女性（75歳主婦）

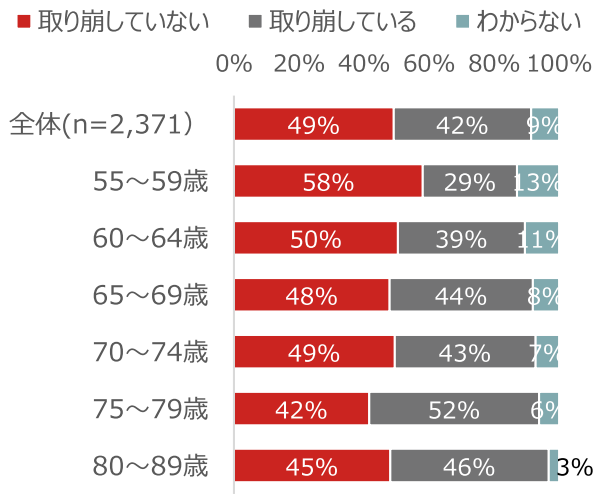
- 2人の年金で400万円。また■■との▼▼年金保険の受取があり、全体で500-600万円くらいあるので。余裕で暮らせている。
- 今は健康だが、自立できなくなってきた場合、ヘルパー代などもかかってくると思う。病気で老人ホームに入るかもしれないし。
- 自分がケアマネージャーをやっていた時の知識はあるが、制度もどんどん変わるので、いくらかかるかわからない。
- 歳とってくると、外出もしないし、洋服も買わないので出費は少なくなるので暮らしていける。

（注）インタビュー調査におけるコメントにおいて、個別の金融商品や金融機関の言及について、XXX等で伏せている（以下、同）

■ 金融資産の取崩し状況；4割強が取崩しており、その平均金額は年78万円（月6.6万円）。老後資金が不足した場合、年金生活に入る前では「どうしていいか、わからない」が3割程度を占めている

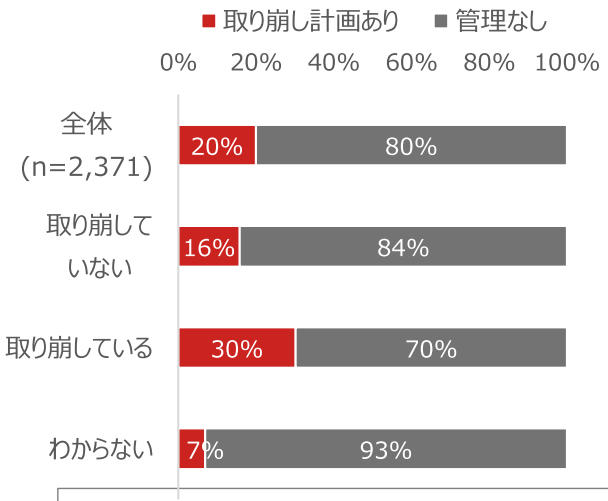
Q)最近1年間で、その月・年の収入以外の貯蓄・金融資産から、どれくらい取り崩して支払に充てていますか。(全体 n=2,371)

金融資産の取崩しの有無（全体 n=2,371）

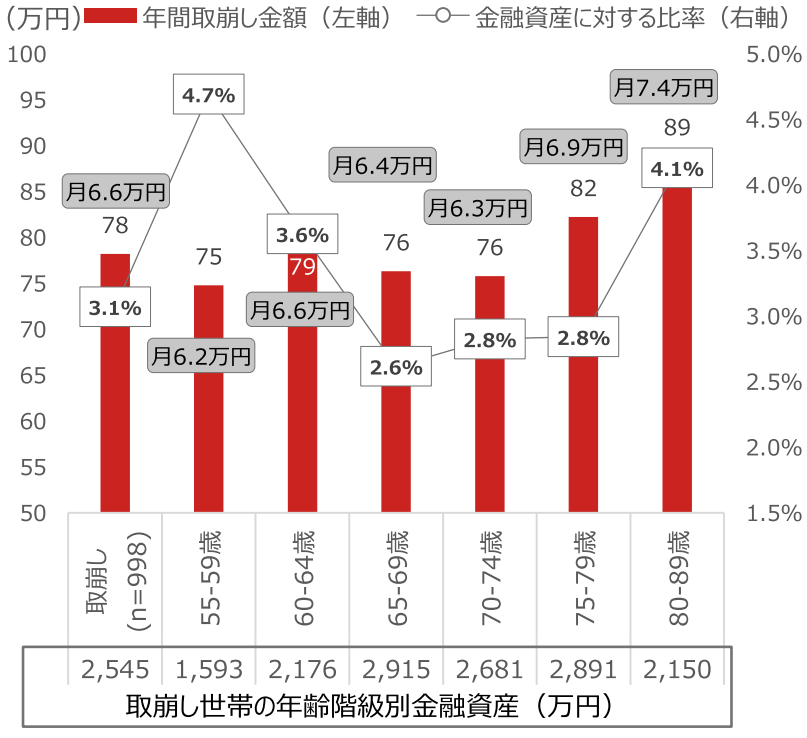


Q)老後生活での貯蓄や金融資産の取り崩しについて、資金管理をしていますか。(全体 n=2,371)

取崩し計画の有無（全体 n=2,371）

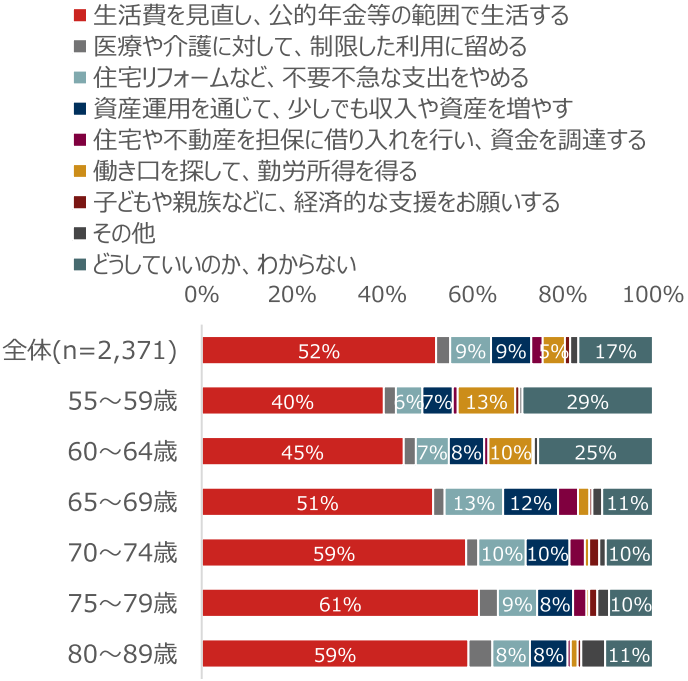


金融資産の取崩し金額 （取崩し n=998）



Q)準備した老後資金では、足りなくなる場合、老後生活において、どのように対応しますか。(全体 n=2,371)

老後資金が不足した場合の対応 （全体 n=2,371）



＜インタビュー調査＞ 老後資産に対する意識

◆後期高齢投資層・男性（83歳無職）

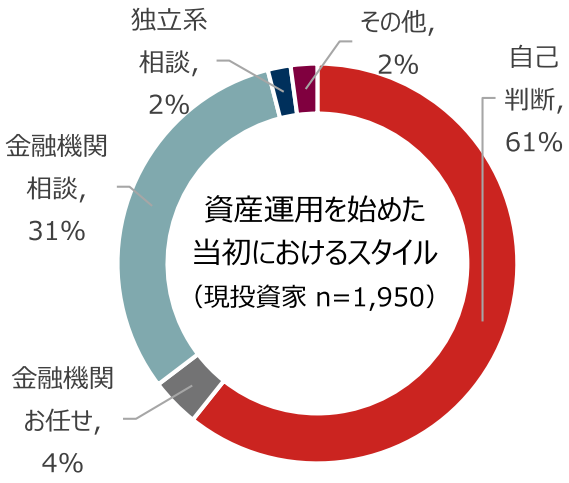
- 現在は自分の年金300万円と預金の取り崩しで生活。分配金はあるがたいした額ではない。妻がもらっている年金は知らない。
- 預金取り崩しは月10万円くらいで、それは遊びに使う分。年金が今のままなら100歳まで生きてちょうど残高ゼロになる。
- これでは老人ホームには入れないので自宅を売却する。
- 老後資金は計画した訳ではなく、50歳から自然に流れ込んだ感じ。

■ 当初から自己判断層は、現在および、これからも自己判断。当初金融機関支援層は、継続層と自己判断層とに分かれる。他方、現在の金融機関支援層は、今後とも金融機関の支援を求めている。自己判断層は、高齢により資産運用をやめる（預金化や現金化する）傾向が高め

Q)あなたの資産運用・投資する商品や方針はどのように決めたいと思っていますか（思っていましたか）。(現投資家 n=1,950)

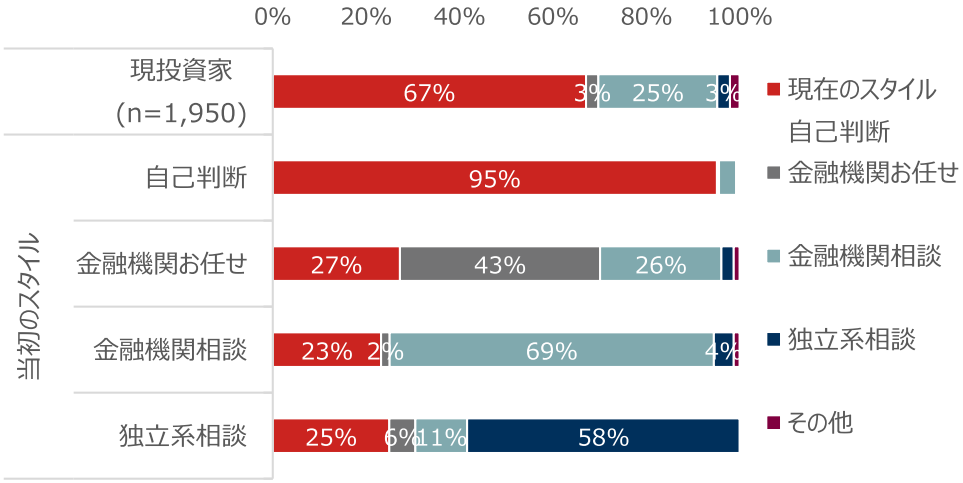
当初の投資スタイル

資産運用を始めた当初のスタイル



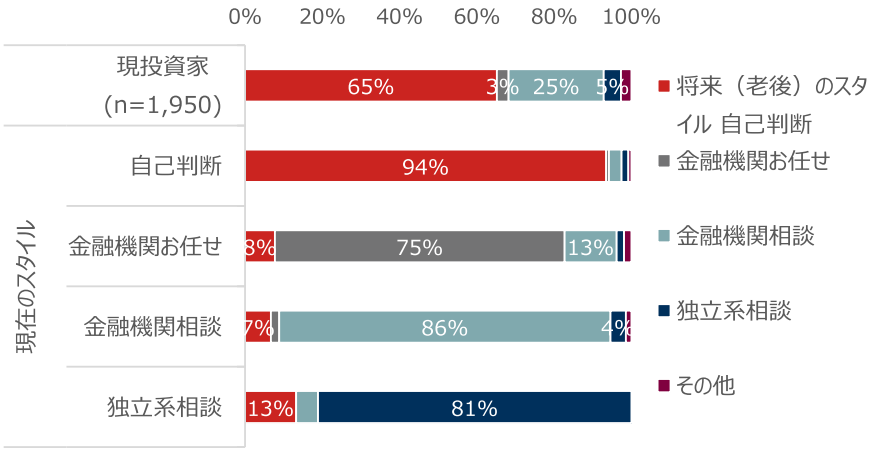
当初スタイル別にみた現在の投資スタイル

現在の投資スタイル



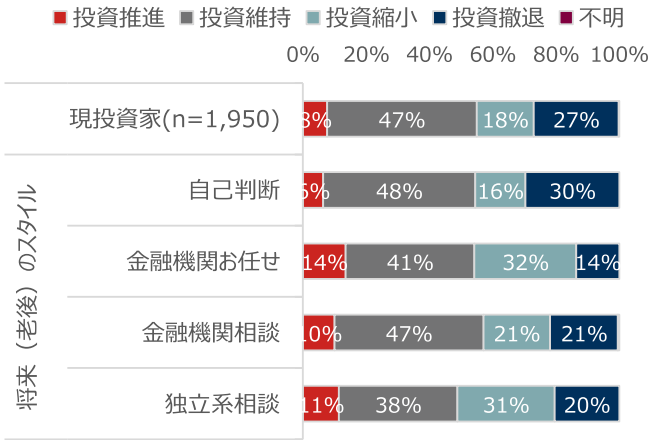
現在スタイル別にみた将来の投資スタイルの意向

将来（これから先の老後）の投資スタイル



将来の投資スタイル別にみた今後の投資方針

今後の投資方針



<インタビュー調査> 資産運用の終活に対する意識

◆後期高齢投資層・男性（75歳無職）

- 65歳当時は多少リスクを背負ってもと思ったが、今はあまり冒険しない。
- 以前は買い直したりしたが、今は面倒くさいのでそのまま。
- 80歳までにすべてやめて現金化しようと考えている。子供一人なので特に相続対策なし。

◆後期高齢投資層・男性（83歳無職）

- 投資のための情報収集力や気力も80過ぎからそろそろ限界。XXXXからも足を洗おうと考えている。
- 新規購入はせず、現金に変えていこうと思っている。処分するタイミングを今見ている。
- 二次相続を少なくしたいので死亡保険の名義を子供と妻にしている。

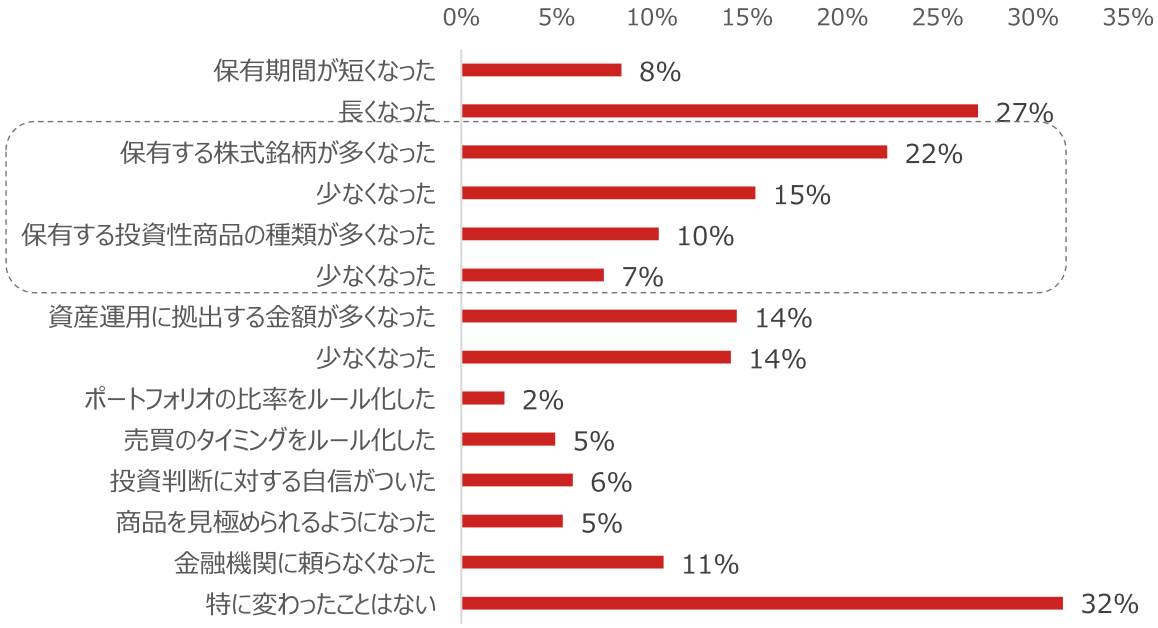
◆前期高齢投資層・男性（67歳パートタイマー）

- 75歳まではいまのまま運用を続け、自分で管理しきれなくなったら、妻もしくは子供名義にする。
- 最期まで自分で投資したい。金融機関に任せるつもりはない。自分できなくなれば、やめる

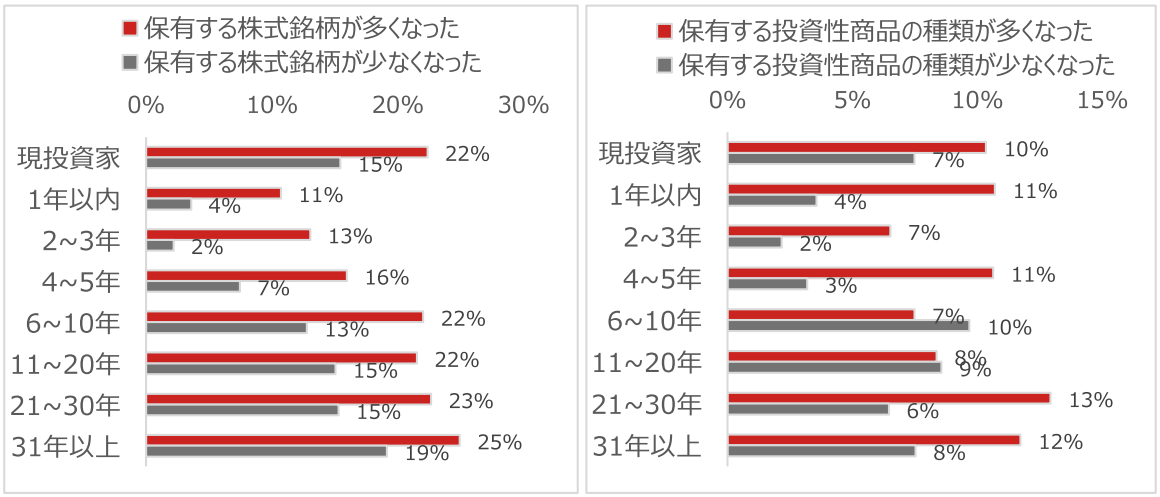
投資経験を経ることで、投資行動にも変化が見られる。投資経験が長ければ、商品保有期間が長くなる一方で、商品数や銘柄数が増えている。そのため、運用管理のニーズが高まっているものと見られる

Q)資産運用・投資を始めた当初に比べ、現在、資産運用・投資のする商品・方針について変わってきたことはありますか。
(現投資家 n=1,950)

資産運用・投資商品や方針の変化　（複数回答、現投資家 n=1,950）



投資経験年数別投資商品保有の変化　（複数回答、現投資家 n=1,950）



＜インタビュー調査＞資産運用の終活に対する意識

◆プレシニア投資層・女性（59歳主婦）

- （取引の度に金融機関は増えたが）相続のために、口座は75歳くらいまでに減らしておきたい。
- ネット銀行は相続が面倒そう。

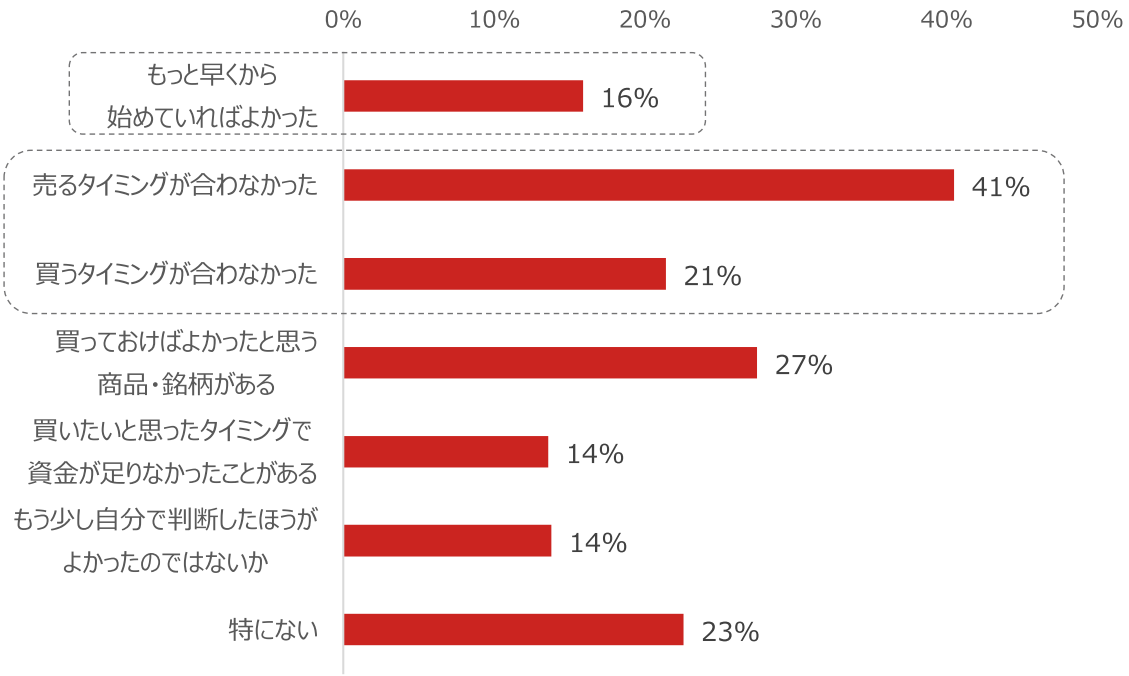
◆後期高齢投資層・女性（75歳主婦）

- 株と投信はずっと置いている感じ。店舗に行くと「これ解約した方がいい」などと担当者言われるまま。自分で調べない。
- XXXX（銘柄名）の株もまだ持っている。○○○○（金融機関名）が金額的には多い。取引銀行が多いので、独立系FPにお金を払ってでもちゃんと相談したい。

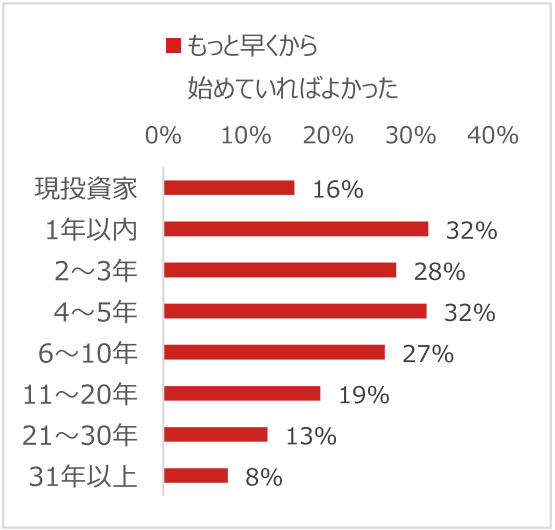
投資家として反省している点は、売買タイミングで、特に「売るタイミング」「買っておけばよかった」の割合が高い。最近始めた初心者層では、「もっと早くから始めればよかった」の割合が高め

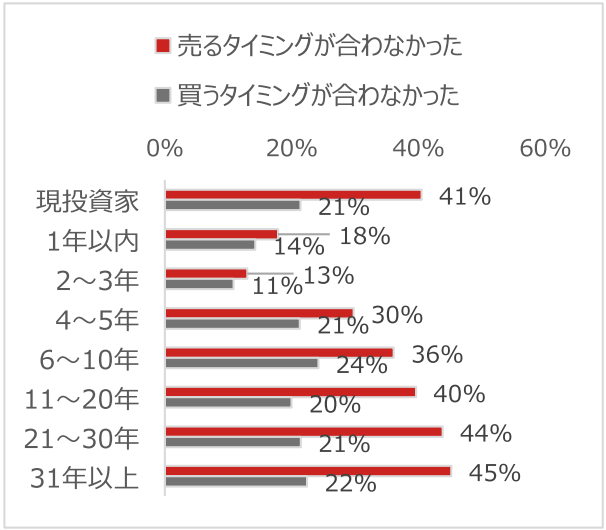
Q)これまでの行ってきた資産運用・投資を振り返って、もう少しこうすればよかった等反省する点はありますか。
(現投資家 n=1,950)

投資家として反省すること　（複数回答、現投資家 n=1,950）



投資経験年数別投資家として反省すること　（複数回答、現投資家 n=1,950）





＜インタビュー調査＞自身の資産運用を振り返って後悔、反省していること

◆プレシニア投資層・女性（59歳主婦）

- とりあえず儲かっているので、損は出していないが、だめなのもあるし大丈夫なのもある。もうちょっと早く売ればよかったとか、もうちょっと待っていればよかったと思う。

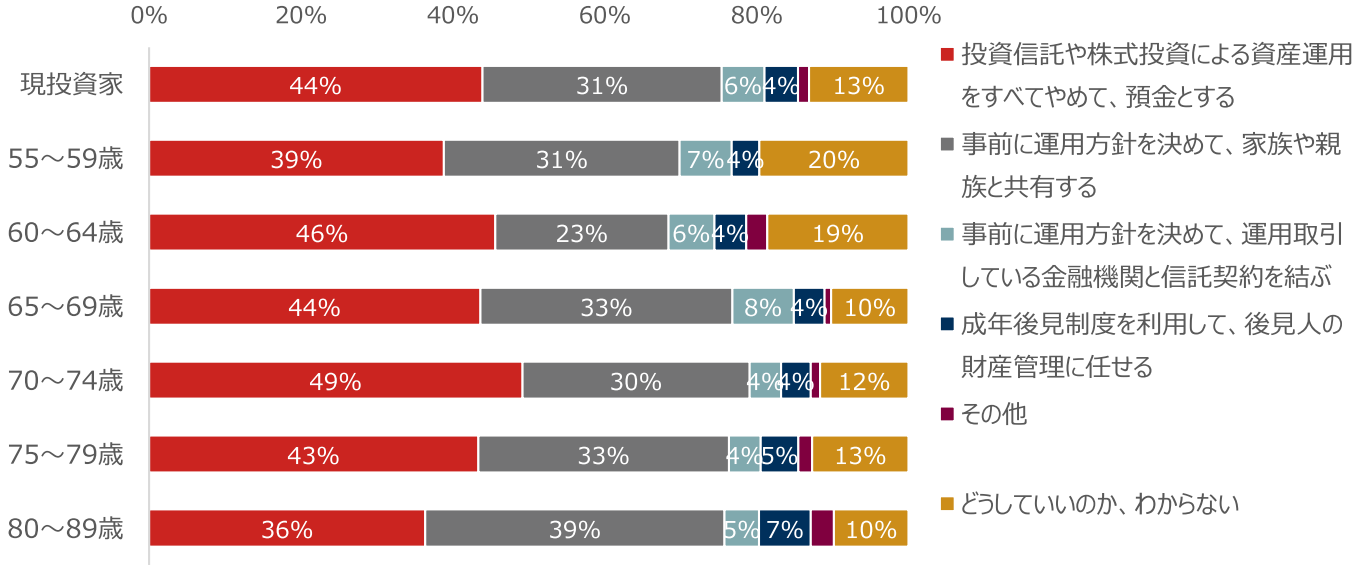
◆前期高齢投資層・女性（70歳主婦）

- XXXX国債がデフォルトしたときは国がバックになっているから安心と言われ売らなかったら、国が破綻して未だにお金が返ってこないので自分で勉強しないとダメだなと思った。

投資判断ができなくなると、「運用方針を家族と共有」よりも、「資産運用をやめて預金とする」割合が多い

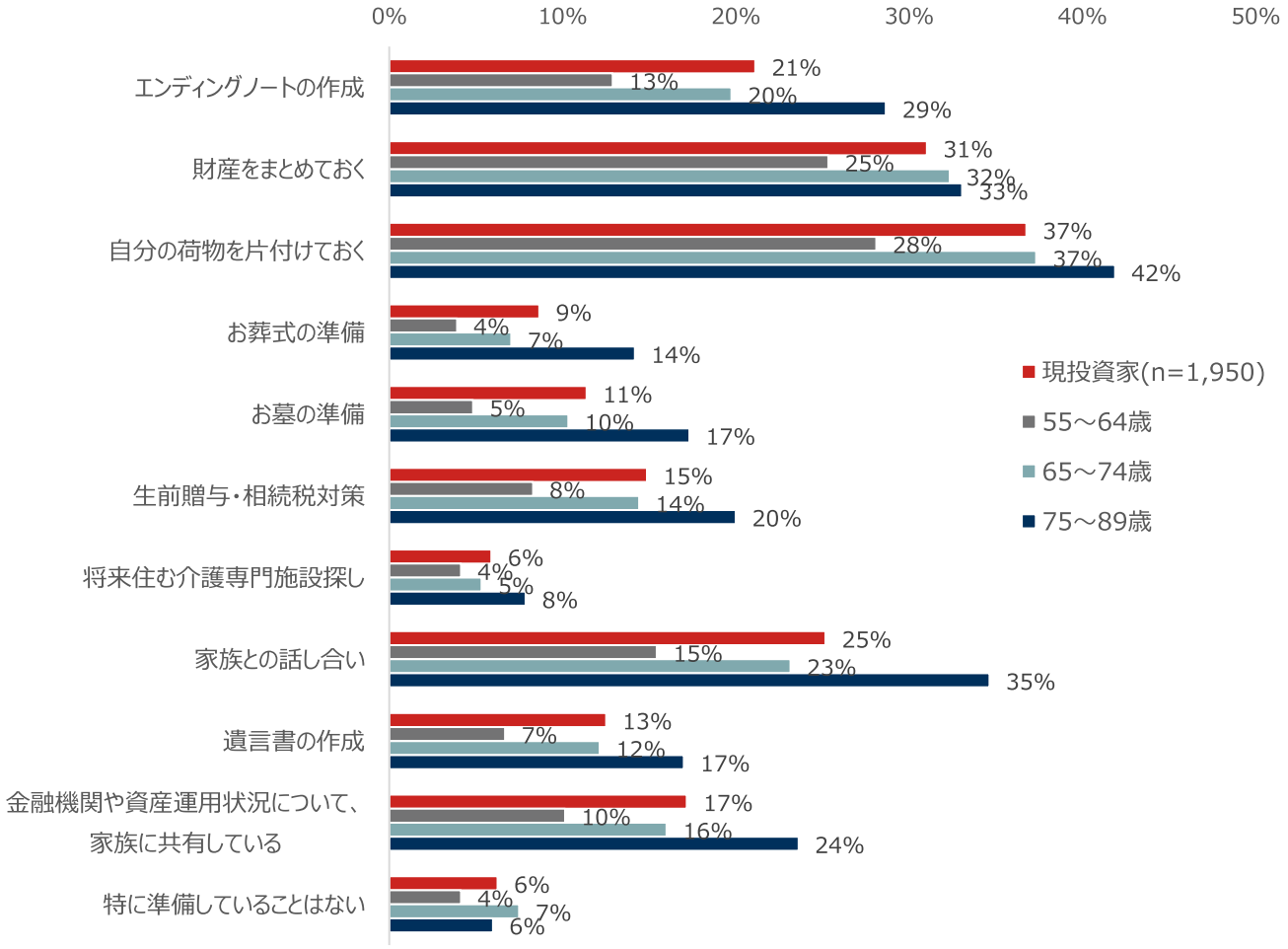
Q)将来、仮に高齢になって、ご自身による資産運用ができなくなった場合、老後資金について、どのようにしたいと思いますか。(現投資家 n=1,950)

老齢化における資産管理に関する意識（現投資家 n=1,950）



Q)老後に向けて準備していることはありますか。(現投資家 n=1,950)

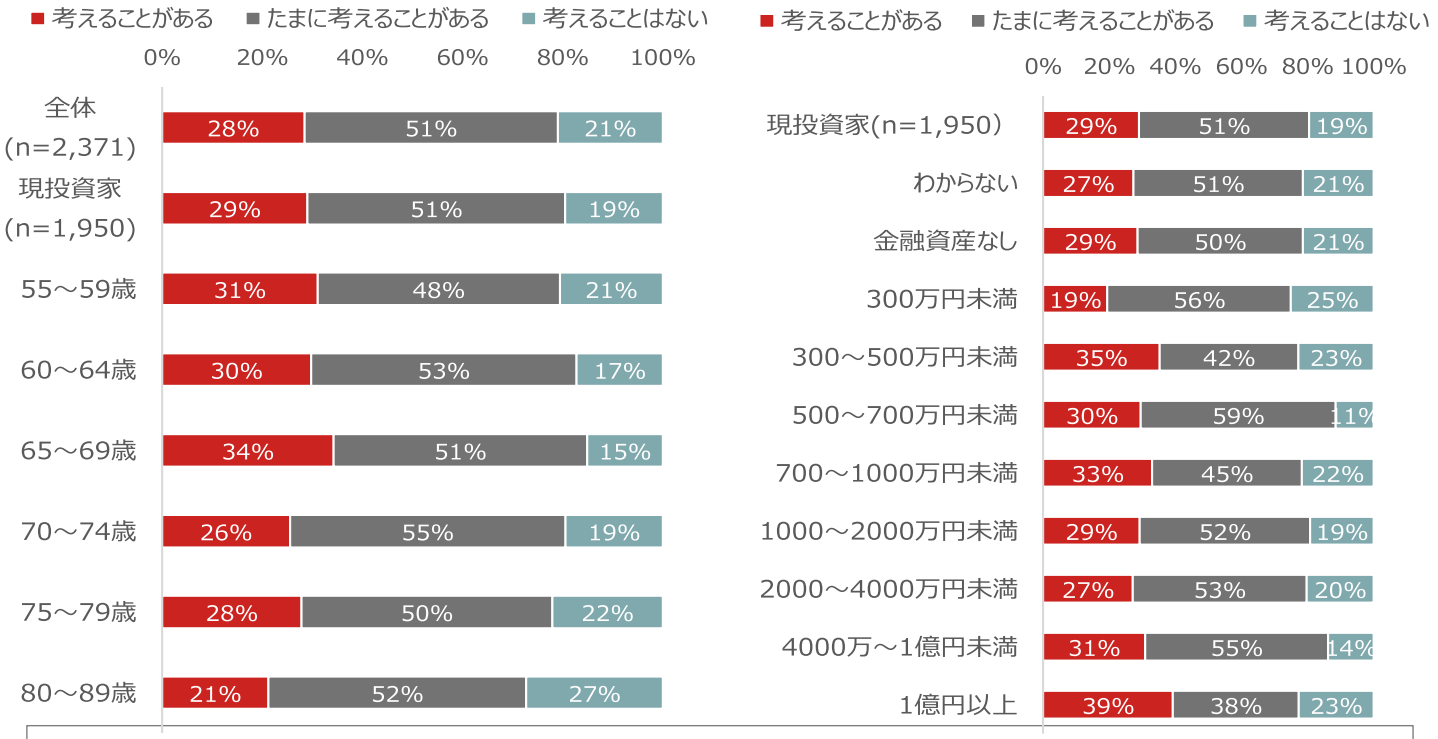
年齢階級別にみる老後における準備状況　（複数回答、現投資家 n=1,950）



認知症への不安は、年齢・金融資産に関わらず、8割程度。認知症不安に対して必要な金融サービスは、「金融資産の一元管理」「家族信託」「遺言状作成」「売却管理」。資産管理サービスを求めている様子がうかがわれる

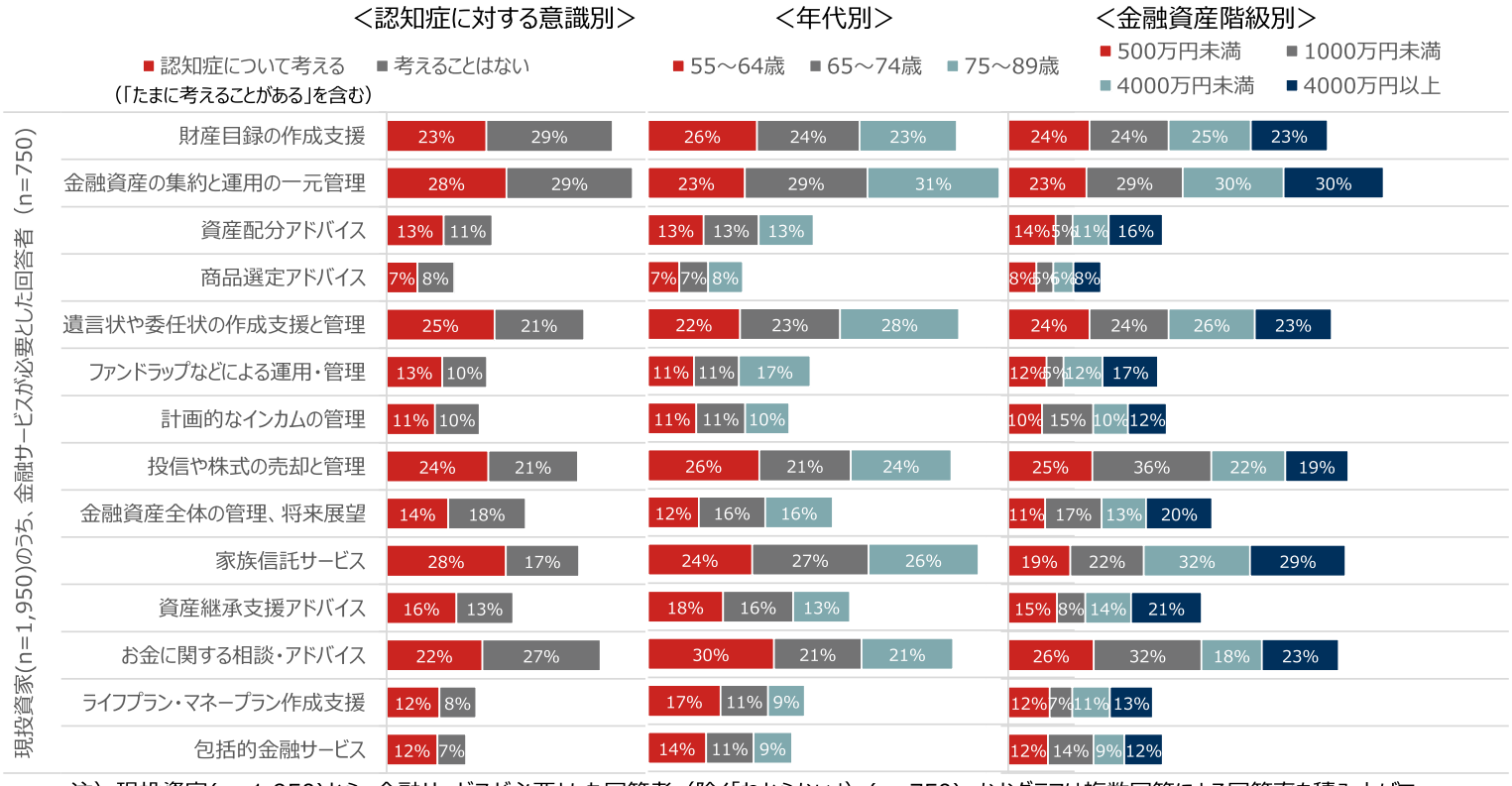
Q)あなたは、自分が認知症になるかもしれないと考えることがありますか。(全体 n=2,371)

認知症に対する意識（現投資家 n=1,950）



Q)金融資産の管理について、金融機関に求めるサービスはどのようなものがありますか。(現投資家のうち、金融サービスが必要とした回答者 n=750)

必要な金融サービスに対する意識　（複数回答、金融サービスが必要とする投資家 n=750）



注）現投資家(n=1,950)から、金融サービスが必要とした回答者（除く「わからない」）(n=750)。なおグラフは複数回答による回答率を積み上げて表示している

■ 調査方法の概要

● 調査目的

「人生100年時代」と言われる個人の長寿化と社会の超高齢化において、保有する金融資産が最期まで枯渇することなく、長期に維持されることが求められている。
本調査では、50代後半から80代の高齢者層を対象に、金融ジェロントロジー（金融に係る老年学）に基づき、老齢化の状況などの中で、金融資産の運用や管理の実態と意識を把握することをねらいとしている。またこれらの調査結果を公表することにより、資産運用に関する調査研究の向上など、社会への還元を図ることを目的とする。

● 調査対象

55歳以上89歳までの男女（調査会社に登録しているモニター）を対象に、インタビュー調査およびアンケート調査を実施。インタビュー調査では、12名を対象に1対1で直接ヒヤリングを行い、定性的な情報を収集した。アンケート調査では2,371サンプルを対象に実施。定性および定量調査の両面で、高齢者の資産運用・管理の実態を把握した。

● サンプル数

・インタビュー調査；12名　・アンケート調査；2,371サンプル。以下に、性年代別等のサンプル数を記載している。

インタビュー調査のサンプル数

（1on1インタビュー、名）	インタビュー合計			55～64歳（プレシニア）			65～74歳（前期高齢）			75～89歳（後期高齢）		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
インタビュー合計	12	8	4	6	4	2	3	2	1	3	2	1
投資経験あり	9	6	3	3	2	1	3	2	1	3	2	1
経験なし	3	2	1	3	2	1						

アンケート調査のサンプル数

	サンプル数	比率	投資経験あり		経験なし	
合計	2,371	100%	1,950	82%	421	18%
男性	1,291	54%	1,079	46%	212	9%
女性	1,080	46%	871	37%	209	9%
50歳代後半	446	19%	219	9%	227	10%
60歳代	879	37%	685	29%	194	8%
70歳代	914	39%	914	39%		
80歳代	132	6%	132	6%		
55～59歳	446	19%	219	9%	227	10%
60～64歳	409	17%	215	9%	194	8%
65～69歳	470	20%	470	20%		
70～74歳	411	17%	411	17%		
75～79歳	503	21%	503	21%		
80～89歳	132	6%	132	6%		

※65歳以上について投資経験者を対象とし、55~64歳は投資経験がない者も対象としている。%表示は、すべて合計(n=2,371)に対する比率

● 調査方法

・インタビュー調査；1対1による対面聴取。1人当たり1時間程度　・アンケート調査；インターネットによる調査

● 調査地域

・インタビュー調査；一都三県居住者（東京・神奈川・千葉・埼玉）　・アンケート調査；全国

● 調査時期

・インタビュー調査；2019年8月1日（木）～8月4日（日）
・インターネット調査　2019年9月28日（土）～9月30日（月）

● 共同プロジェクトについて

調査実施においては、野村アセットマネジメントと野村資本市場研究所が共同で実施。資料作成は野村アセットマネジメント、資料作成サポートは野村資本市場研究所でとりまとめた

野村アセットマネジメント
資産運用研究所

商　　号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人投資信託協会／
一般社団法人日本投資顧問業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会